

# アダム・スミス『国富論』初版

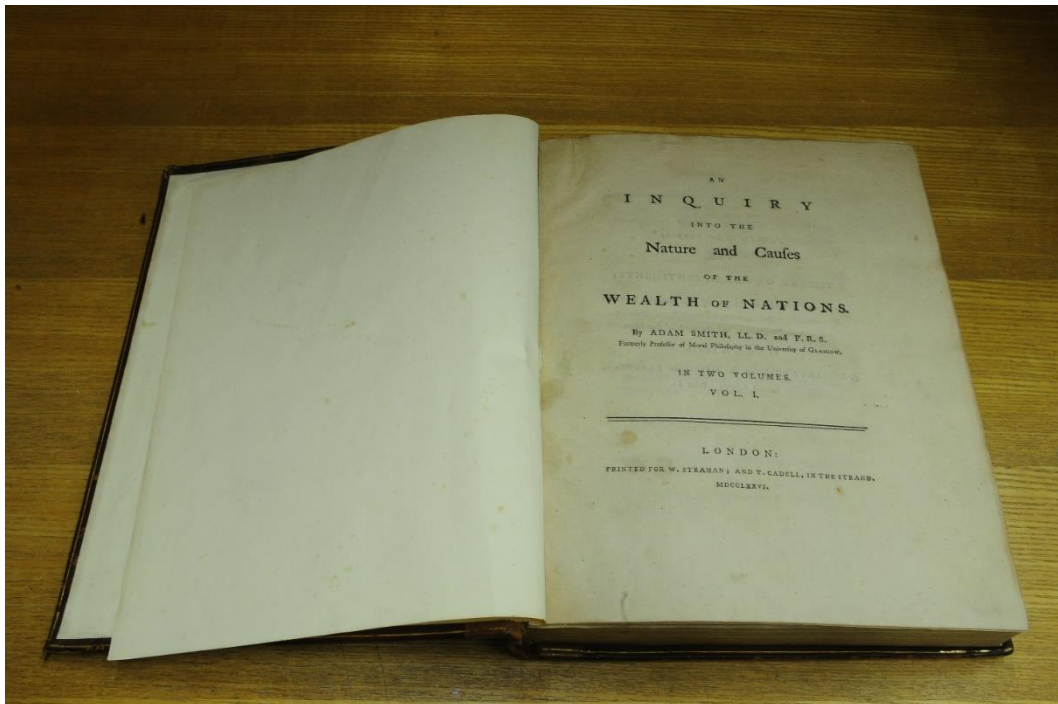
本学名誉教授 星野 彰男

アダム・スミス（1723～90年）は、英国と合邦後のスコットランド出身、母校の道德哲学教授、名家子弟の渡仏つき添い教師を経て、故郷で「国富論」（1776年）を書き上げた。本書は、市場経済の模範として広く読み継がれ、維新後の日本には、福沢諭吉らによって導入され、国内外を問わず、経済学の最高古典と評価されてきた。

本書の一特長は道德面にあり、人々の利益追求の自由に任せても、相互チェックによる秩序が保たれ、より豊かになるという。この「見えざる手」の観点は、もろもろの反発を受けながらも、その都度、不死鳥のように蘇（よみがえ）った。その理由は、道德と効率を一石二鳥のように実現させ、戦争や財政破綻を防ぐための理論と政策を唱えているからである。

初版は分厚い2巻本で、貴重書の最たるものだ。日本では若干の他大学にも、所蔵がある。

（初出「神奈川新聞」2014年7月21日付）



本学図書館貴重資料 『国富論』